

TRANSITION TO HEALTH (072)

電磁波環境と健康被害 ⑧

～『スマホは18歳』になってから！ Part 2～

はじめに

スティーブ・ジョブズ氏は **子ども** 達には **スマホ** を **禁止** していた！？

アップル社を共同創業した天才スティーブ・ジョブズ (Steven Paul "Steve" Jobs) 氏が、彼の4人の子ども達には iPhone や iPad を使わせなかったことは有名な話である。ジョブズ氏は、親として**アナログを貫き**、**デジタル**機器に関しては「**子ども達の利用を厳しく制限すべきである**」と語っていたという。

これは、石油メジャー・製薬業界に君臨するロックフェラー一族が、石油由来の新薬を一切使わず、薬物療法 (アロパシー) を否定して、自然療法 (ナチュロパシー) や同種療法 (ホメオパシー) を実践しているのに似ている。あるいは、かつて某大統領が自分の娘には新型インフルエンザワクチンを打たせなかったことにも似ている。危険性を十分承知しているからに他ならないであろう。

ジョブズ氏は、～「**デジタル**電磁波は**自然界に存在しない**断続的パルス波で、今まで人類が体験したことのない**危険な波**である」ことを知っており、少なくとも、発達途上の**子ども達**にとっては、**極めて危険**である～ことを認識していたから、自分の子ども達には禁じていたのであろうと私は思う。

あなたは真剣にわが子と向き合っていますか？

「携帯電話は『**脳を電子レンジ**に入れて』いるようなもの」と多くの研究者たちが**警告**してきたことはご存じでしょう。便利だからついつい使ってしまうのでしょうか。もし、あなたが子育て中であった場合、まさか**スマホを片手に**子どもをあやしたり、授乳したり、抱っこ紐に入れて散歩したりは、間違ってもしていないでしょうね。スマホに育児の一部を任せてはいないでしょうね。スマホで大切な**わが子の将来の芽を摘んで**しまっていないでしょうね。スマホ漬けの子ども達に日本の将来を託すことはおそらくできないでしょう。

赤ちゃんをスマホ**依存症**やスマホ**中毒**にしたり、また、授乳中や移動中にスマホに夢中になってしまい、子どもとのコミュニケーションを疎かにしたり、スマホにコミュニケーションの一部を任せてしまったりは、決してしてはいないでしょうね。



子ども達は iPhone, iPad を使ってはいけない!!



公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail: info@kenshin-shizuoka.net

“スマホが健康に悪い” というデータは 今後も出ない、だからリスク管理を！

～ 『スマホ内斜視』や『スマホ首（ストレート・ネック）』の話なら聞いたことはあるが、「スマホで白血病・脳腫瘍・リンパ腫」という話は聞いたことがない～ これでは、世界標準からあまりにも後れている、かけ離れている。

◆ 20年以上も前から携帯電話の危険性は指摘されている、立証されている

右表は、1997年から2012年までに世界中の研究者の「携帯電話の電磁波の害」についての研究で得られた悪影響を拾い上げたものである。動物実験や人を対象とした検査で、これだけの悪影響の結果が出れば、欧州諸国が「16歳以下の使用禁止」「14歳以下への広告・宣伝禁止」などの対応措置を取ったのも当然といえる。

ところが、日本では「今のところ、電磁波が小児白血病や脳腫瘍の原因であるという明確な研究結果は出ていない。」電波を管轄する総務省も「電波による人体への影響は熱作用だけであり、それ以外の影響については根拠が示されていない」という立場をとっている。今世紀の初めに、国立環境研究所（2003年）が、カロリンスカ研究所（2004年）が、WHO（国際がん研究機関）（2011年）などが警告してきたにもかかわらず、総務省や厚生省などの公が、「健康被害を認めない」から後れをとっているのであろう。

～日本人は欧州人と違い「電磁波耐性が強い」～などということはなかろう。最悪の結果が出てからでは遅すぎる。過去の薬害エイズや肝炎訴訟の時のように・・・。

◆ 「スマホ電磁波の健康被害」を明確に証明するデータは今後も絶対に（？）出てこない！？

電磁波の健康被害を医学的に明確に証明するには、スマホを使うグループ（実験群）と使わないグループ（対照群）の2群に分けて、5年10年15年と追跡する比較試験を行わなければならない。そんな研究は現実的には不可能である。誰も研究費を出さない、メリットもない、そんなスマホの比較試験など、誰もやろうとは考えない。だから、総務省や厚生省などの公的機関から「スマホ電磁波の健康被害」を証明するデータなど、絶対に出てこないであろう。

◆ 「スマホ電磁波の健康被害」を明確に証明するデータは今後も絶対に（？）出てこない！？

「チーズなどの乳製品を食べすぎると乳がんになりやすい」「肉を食べすぎると大腸がんになりやすい」「ヘビースモーカーが大酒を飲むと食道がんになりやすい」等は、公的機関がわざわざ言わなくても日本人の多くには分かっている。『♪ 分かっちゃいるけど、やめられない♪』 だから、日本人の2人に1人が今、癌になっているのである。「乳製品の発癌性」「加工肉・赤身肉の発癌性」については、人での明確なデータは出されていないが、動物実験、過去の疫学調査（チャイナプロジェクトなど）で立証済みである。多くの人が「よりヘルシーな食生活」を心掛けているはずである。

◆ よりヘルシーなスマホ生活を！ より安全で快適な携帯電話・スマホの使い方を！

携帯・スマホの「電磁波の健康被害」については、人では明確なデータは出ていないが、すでに「動物実験では結果は出ている」「疫学的には強く疑われる」「統計学的には差が出ている」・・・これで十分であろう。私たちは、自分自身で「リスク管理」するしかない。少なくとも「子どもが成人するまでは、なるべく使用を控えさせる」べきである。

◆ よりヘルシーなスマホ生活を！ より安全で快適な携帯電話・スマホの使い方を！

携帯・スマホの「電磁波の健康被害」については、人では明確なデータは出ていないが、すでに「動物実験では結果は出ている」「疫学的には強く疑われる」「統計学的には差が出ている」・・・これで十分であろう。私たちは、自分自身で「リスク管理」するしかない。少なくとも「子どもが成人するまでは、なるべく使用を控えさせる」べきである。

おわりに 自然界には存在しない有害な人工電磁波によるマイナス(=害)をプラス(=益)に変え、健康被害を無くすものと期待される「生体エネルギー研究所」の生体エネルギー[®]技術があり、この技術を応用して開発された『天音S』というスマホ対応の充電器（誘導翻訳器）が認可・発売されている。私のいわゆる電磁波過敏症（本当は正常反応なのだが・・・）は、この『天音S』で充電することにより軽快した。～ もし、妊婦や育児中の母親が、通常電源での充電で「ながらスマホ」をしてしまったならば、5倍・10倍・数十倍の危険度で、胎児に異常が発生したり、子どもに脳腫瘍や白血病、リンパ腫が発症したり、中学生になってから大脳の発達遅延で成績不良に苦しむ～ という可能性を否定できないデータが、多くの研究者から出されている。わが子の健康と安心・安全を望むならば、『天音S』でスマホを充電し、かつ、使用をなるべく控えてみるのも「リスク管理」としての1つの方法ではないかと、電磁波に苦しんできた経験から、私は個人的に思っている。 TRANSITION TO HEALTH （理事長・医師 丸山 正明）

携帯電話の電磁波の生体に対する悪影響の研究

《脳神経系》

(1997年～2012年)

脳グリア細胞の変異・脳腫瘍発生増加、海馬の興奮性異常、短期記憶の異常、血液脳関門の病的漏出、大脳皮質・海馬・基底核の死滅、睡眠中の脳波異常、精神面の変容

《心臓系》

心筋細胞内のCaイオン移動・濃度の異常、ラットの心臓に悪性腫瘍（がん）発生

《生殖系》

卵巣のDNA損傷・卵巣発育不全、精子形態の変異
精子運動性・精子数・精子生存能力減少・死亡数増加

《DNA、免疫系》

リンパ腫増加、ガン遺伝子の活性化、DNA損傷・断片化・切断・修復減少、細胞自然死増加